

心豊かな暮らし実現を!!



立科町長
両角正芳

新緑の清々しい季節を迎え、町民皆様にはいよいよ清祥のこととお慶び申し上げます。

私こと、このたび皆様の力強いご支援を賜り二期目の町政を担うこととなりました。改めて多くの町民皆様からお寄せいただいた声を町政に活かしながら、係る期待に応えるべく全力で町政運営にあたってまいりる所存であります。

これまでの一期4年間は、災害とコロナへの対応に追われながらも、公約に掲げた喫緊の課題である索道事業(スキー場)の経営改善や旧保育園跡地の利活用などに一定の目途をつけることができました。また、主要政策においては、子育て支援策として、出産祝い金制度や小学校の30人学級制の導入、小中学校・保育園の給食費・副食費の無償化、小中学校の入学用カバンの購入など、少子化対策に意を持ち支援策を講じてまいりました。高齢者皆様の介護予防や健康増進等も関係事業者や団体皆様と連携を図り取り組んでまいりました。

しかしながら、依然として人口減少に歯止めを掛けるまでには至っておりません。加えて、町

が抱える遊休荒廃農地の増大や公共施設の整備など多くの課題を抱えております。私は、二期目の公約に「人口減少抑制策」を最重要課題として位置付け、次の3点の施策を強力に推し進めることといたしました。

1点目は、移住定住に繋げる空き家の活用や住宅造成(二戸建て、集合住宅)を早期に建設し、居住環境の整備を推し進めます。2点目は、次世代への投資として、従来からの子育て支援策の継続と併せ、保健師等が相談窓口となる「こども家庭センター」を令和5年度中に設置し、きめ細やかな子育て支援の更なる充実を図ります。3点目は、町の魅力を広くPRしながら、「立科町」の知名度アップを図り、「訪れてみたい、住んでみたいと思える町」をめざします。

また、「中央公民館とその周辺施設の整備は、すでに役場職員で構成するプロジェクトチームによつて利便性等の検討はしておりますが、「若いも若きも集い、語り、潤いの持てる施設」となるよう、町民皆様や専門家のご意見等を拝聴する中で、整備方針をお示ししてまいります。次に、主要政策に掲げた4項目について申し上げます。

- 一 子育て支援と教育の充実
- 一 健康で安心した暮らしの実現
- 一 地域資源を活かした産業振興
- 一 居住環境整備と安定した行財政運営

以上の政策を補完する主な施策の内、

①早期に取り組むものは、観光地の再生及び活性化を図る観点から、行政・地元事業者・住民で構成する「(仮称)立科町観光振興推進会議」を立ち上げる。また、すでに設立に向け準備中の「(仮称)立科町地域振興公社」の組織づくりを本格化させ、テレワーク事業の強化や産業振興支援に繋げてまいります。デジタル化への対応においても、住民サービスと事務の効率化をめざし、順次必要に応じた取り組みを進めます。

②中長期的な取り組みは、持続可能な農業振興策(ブランド維持と強化)。森林資源の整備と活用(特に、里山整備)。医療・介護支援(健康長寿の町を目指す)、特色ある立科教育の実践と蓼科高校を守る。生ごみ処理と利活用(循環型)。インフラ整備等、これら施策の実施には、国県の補助事業や有利な起債事業を活用しながら行財政運営に努めます。

結びに、国内外における紛争や事件、災害等が頻発しております。コロナも5類に位置付けられたとはいえ、収束には至っておらず、一日も早い収束と災害のない年となりますよう祈念申し上げますとともに、町民皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、就任の挨拶といたします。